

専修大学
創立130年
記念企画
第03回

日本を変える、
世界を動かす!

社会知性の チカラ

The Potential for "Socio-Intelligence"

司法&税務・法務の新たな歴史と高度な専門性

二一世紀の日本の 新たなカタチをつくる力

「専門教育」の専修大学——二三〇年前の創立の頃から、法律、会計は二大テーマとして大学側が注力してきた学問である。法曹資格や大学で学んだ法律、会計・財務の知識と精神を生かして、公職や民間で活躍する一〇人を紹介する。

法学部で四年間、学術奨学生を通じた ことが、人生の糧であり励みでもある

二〇〇九年三月まで三年間、

法務省の法務総合研究所に教官として勤務し、入国管理局職員を対象に法律の講義などを行っていました。この三年間は、研修員とともに、自分自身が人生でも最も勉強した期間でもあります。

専大に入学した当初は大学院進学志望で、早くからそのための勉強もしていました。授業をサボったのは四年間で一時間だけ。どうしてもそのとき、千鳥ヶ淵でボートに乗りたかったのです(笑)。四年間での成績は三科目を除き「優」。特待生で入学し、その後も卒業まで学術奨学生を通じたので、在学中の学費は全額免除、卒業式では法

学部

の総代に選ばれました。大学では「いかに学ぶかが大切」と考えていたので、勉強するときは集中して真剣にやりました。その結果が、自然と総代へつながったのだと思います。

職場では「男性の三倍は 努力すべき」がモットー

授業以外で印象に残るのは、現学長の日高先生の刑法ゼミと、民法学研究会での活動です。日高先生からは、先日も個人的にアドバイスをいただきました。「出身大学の名前は印籠のように突き出して使ってはいけない。母校の名前は自分で背負って生きていかねばならない」という

もので、今後の人生でかみしめていかなければならない教訓であると思っています。

四年次の夏になり、急ぎよ進学をやめ就職へと方向転換しましたが、企業の多くは採用を終えており、公務員試験も残りはおろか、日高先生と相談して、入国警備官試験を受けることにし、法務省入国管理局に入りました。しかし、当時はまだ

「入管」の知名度は低く男性社会でしたから、「女性がここで仕事を続けていくには男性の三倍は努力しなければならない」と思っていました。また元来、「二度勉強するのは面倒でイヤ」という性格なので、職場の昇進試験には、出産を挟みながらも、いずれも一回で合格しました。しかし、今の私があるのは、

常に周囲の支えがあったからで、自分一人だけの力ではありません。上司、同僚、両親……。周囲の方々の恩に報いるためにも、そして後に続く女性入国警備官のためにも、専大での勉学の精神をばねに、ますます努力していかねばと思っています。

先日、日高先生に薦められて『蒼翼の獅子たち』を読み、創立者たちの強い精神力に感銘を受けました。学生の皆さんも、母校の建学の精神を再認識し、社会で活躍できる「専修人」になってもらいた

と思います。

21

法務省東京入国管理局
入国警備官

田中津夜

(1984年法学部卒業)

84年法学部を総代で卒業。入国警備官採用試験に合格し、東京入国管理局横浜支局に採用される。09年3月まで法務総合研究所で教官を務め、現在は東京入国管理局に勤務。学生時代は刑法を専攻、日高ゼミを選んだのは「論文審査だけで試験がなかったから」。

*1【日高ゼミ】現学長を務める日高義博氏のゼミで、テーマは刑法。

*2【蒼翼の獅子たち】志茂田景樹氏が著した歴史小説。専大の4人の創立者が主人公。





計修会での研鑽と「4000時間勉強」で大学3年次に会計士試験合格

監査法人トーマツ・公認会計士 手塚仙夫

(1972年商学部卒業)
栃木県出身。高校の商業科、簿記の専門学校を経て商学部入学。入学の動機は「得意の商業簿記で受験できたから」。大学3年次に会計士の2次試験に合格、卒業直前の72年2月に等松・青木監査法人(当時)入社。

在 学時の思い出は、会計士試験合格を目指す勉強会「計修会」での活動です。OBや先生方が時に教えに来てくださり、「授業以外に、卒業までに『4000時間勉強』しろ」と発破をかけられたものです。

一年次に入会した時は同期が一〇〇人ほどいましたが、厳しい勉強に辞める人も多く、最後まで残ったのは十数人でした。当時の計修会では、おおむね一学年につき五人くらいが会計士試験に合格していました。

現在のトーマツに入社してからは、さまざまな企業の監査を

行なってきました。当時の監査は今とは違い、信頼で成り立つ和気あいあいとした雰囲気でした。現在のように、会計監査に対する要求が高度になったり、世間の注目が高まってきたのは、バブル崩壊の後からです。

一部の新興企業が手を染めた循環取引などが、他企業に悪用されたりし、数社のために他の上場企業すべてに対する会計基準が強化されたのです。

一三〇年を迎える専大には、「会計の専修」という特色をうまく生かして、さらなる発展を遂げてほしいと願っています。



正法会が一番の思い出。専大の「質実剛健」は今も心の支え

新潟地方検察庁次席検事 中條隆二

(1980年法学部卒業)
新潟県出身。82年司法試験に合格。実務修習を経て検事に任官。東京地検を皮切りに、各地の地検での勤務を歴任。専修大学OBの検事は現在4名でその最古参。現在の目標は新潟地検での裁判員制度のスムーズな導入。

新潟の商業高校時代に、商業法規を学んで法律に興味を持ったことが、専大の法学部を目指したきっかけでした。

一九七六年に入学後、一年次から司法試験受験のための「正法会」に所属、勉強を続けました。当時の正法会はしばらく司法試験合格者が出ない低迷期でしたが同期の古久保正人さん(現札幌地裁判事)が卒業後すぐに合格するなど、身近に合格者が何人か出たのが励みでした。もともと刑事関連の勉強が好きで、また専大で学んだ「質実剛健、報恩奉仕」を地でいった

いとも思い、司法試験に合格して実務修習を終えると、検事を希望。任官後は、各地の地検などを回りました。最も印象に残るのは、八〇年代後半に鹿児島地検名瀬支部にいた折に、夫婦が殺害された事件です。捜査段階で自供していた被告が、公判が始まると否認に転じ、最終的には無期懲役が確定しました。

この間、後輩の法曹資格者も増えて心強い限りです。学生の皆さんも、法律に興味を持ったなら積極的に司法試験を目指してください。合格する、という強い精神力が鍵になります。



航空自衛隊航空支援集団司令部法務官、一等空佐

湯瀬邦彦 (1986年法学部卒業)
秋田県出身。卒業後、一般幹部候補生として航空自衛隊入隊。当初、昔からの憧れだったパイロットを志すが断念、大学で学んだ法知識を生かし法務幕僚として勤務。

現学長の日高義博先生のゼミでは、多面的なものの考え方を学びました。専大の「報恩奉仕」の精神は、自衛官に要求される「Service Before Self(己をおいて他者を生かす)」の気持ちそのものと感じます。後輩の入隊も見られるようになり法務の重要性を彼らに伝えていきたいです。



防衛省統合幕僚監部、首席法務官付法務班

佐藤幸輝 (1986年法学部卒業)
神奈川県出身。在学中は合気道部に所属。86年海上自衛隊に入隊。潜水艦部隊に勤務し、01年から作戦法規の分野に勤務。08年春から防衛省統合幕僚監部首席法務官付法務班に勤務。

学生諸君に対して「国家」について前向きに考えてほしいと思っています。国際社会とは国家の集合体であり、人間が理想の社会をつくり出そうとする現場は「国家」にあります。理想の「国家」建設のために専修大学で何を学ぶかを考えてほしい。専大生諸君の奮闘を期待します。



税理士、東京税理士会理事 宮川雅夫

(1978年商学部卒業)
東京都出身。83年税理士試験合格。84年税理士登録。現在、東京税理士会日本橋支部会員。税理士法人宮川税務会計事務所代表社員。09年6月より東京税理士会副会長。

専大は「計理専修」の伝統の下、会計学や税法を学ぶ環境が整っていました。会計学研究会のサークル「計理研究会」に属し、75年には「全日本学生会計学研究会」に発表者として参加したことが思い出。独立・公正に専門家として活動できる税理士の職業に誇りを持ち続けたいです。

税務・法務活動に国家・国民への奉仕 —生かされる専門性



新日本有限責任監査法人スタッフ 新村弥加

(2007年商学部卒業)
静岡県出身。商業高校を経て商学部入学。4年次に会計士試験合格。合格後、新日本有限責任監査法人に勤務。現在は同社浜松事務所のスタッフ。今冬、修了審査を受験予定。

会計士試験を目指し、生田校舎での授業の後、大原簿記専門学校に通い、また神田校舎の計修会の自習室を利用して勉強しました。授業や上田和勇ゼミ(テーマは保険)で学んだことが、今の仕事にも生きています。目前に迫る修了審査(昔の3次試験)の合格が当面の目標です。



警視庁警備部警備第二課、警部補 福岡 淳

(2006年法学部卒業)
神奈川県出身。警察庁入庁後、情報通信の職務に就く。国際緊急援助隊の一員としてスマトラ島沖大地震やパキスタン大地震災害での救助活動に携わる。02年有職者入試で専大に入学。

伝統ある専修大学で習得した専門的かつ多様な知識は、人生の視野を広げる大きな契機となりました。この間、親族法のゼミでご指導いただいた恩師の家永登教授をはじめ、多くの方々からご支援をいただきました。今後も誇りと使命感を持ち続けていきたいと思っています。



法テラス宮崎法律事務所・弁護士 鶴森雄二

(2006年法科大学院法務研究科修了)
宮崎県出身。東京大学法学部卒業後、04年に法科大学院(法務研究科法務専攻)入学。06年新司法試験合格。07年弁護士登録。09年より日本司法支援センター(法テラス)常勤弁護士。

専大時代はポート部が中心でした。卒業後3年間の独学の後、専大の法科大学院1期生として入学しました。授業での討論では刺激を受けましたね。現在は法テラスで主に国選弁護と民事法律扶助事件に携わっています。困っている人を助けたいという初心を忘れずにいきたいです。



弁護士 小幡佳緒里

(1993年法学部卒業)
東京都出身。専門学校(秘書科)卒業後、就職と同時に専大法学部入学。94年東京法務局に入局。97年には退職して司法試験を目指す。00年司法試験合格、03年弁護士登録。

学祭では模擬裁判を実施。安楽死をテーマに、市民の方々に陪審員になってもらい有罪無罪を議論してもらいました。専大には社会人も勉強する機会を持てるような配慮がありました。社会経験を経た方々の体験を聞いたり議論し合ったことが、今の私に大変プラスになっています。